



VOICE

千代田区議会 自由民主党議員団活動レポート

発行：千代田区議会 自由民主党議員団 〒102-8688 東京都千代田区九段南1-2-1(千代田区役所7F)

あなたの声をお聞かせください!

▶ウェブサイト <http://jimin-chiyoda.tokyo>

▶お電話 03-5211-4320 ▶ファクス 03-5275-6882



戸張 孝次郎



桜井 ただし



小林 やすお



松本 佳子



嶋崎 秀彦



内田 直之



永田 壮一



山田 丈夫



池田とものり



大坂 隆洋



小林 たかや

政治は国民のもの
自民党

区政をリードする
自民党議員団に
ご期待ください!

平成31年第1回定例会——予算特別委員長として

区議会議員としての任期が満了となる前の最後の区議会定例会において、4月からの新年度予算を審査する予算特別委員会の委員長の重責を今回初めて担わせていただきました。

今回の予算案は「豊かな地域社会の実現に向け、健全な財政運営を継続しつつ、積極的かつ効果的な事業展開を図る予算」として、中長期的な視点のもと複数年度の事業推移を見据え、過去2番目の規模で編成されました。

委員会では今年度補正予算案も含め、各会計新年度予算案が連日遅くまで審議され、特に文化財保護に関しては熱い議論が交わされました。審議の中で、区民からの指摘で貴重な文化財の保管や台帳整備が十分なされていないこと等が明らかになり、委員会では新年度予算の執行にあ

たり、文化財保護に関する附帯決議を全会一致で可決いたしました。

一方、「国保料の引き下げ」や「がん検診の無料化」「共生社会の実現」に向けた様々な新事業など区民の要望に沿った施策が予算化されたことは大いに評価できるものがあります。

今回初めて委員長に選任され、限られた日程の中での委員会運営に戸惑いも少なからずありましたが、委員、理事者の多大なるご協力により、十分議論を尽くし、委員長として予算審査という重責を全うすることができましたことを皆様に心より厚く御礼申し上げます。

予算特別委員長 小林 たかや



退任のご挨拶



平成7年に初当選させていただいて以来、皆さま方のあたたかいご支援のおかげで、6期24年にわたり区議会議員を務めさせていただきました。6期中には議長を2度も勤めさせていただき、また、幹事長、予算、決算の委員長も経験させていただくなど、充実した議員生活を送ることができましたのも、皆さま方のおかげと思っています。

この間大病を患ったりもいたしましたが、同僚議員をはじめ、区長、理事者や職員の方々に心あたった気持ちで支えられながら、区政の発展に向けて仕事ことができましたこと、感謝の気持ちで一杯でございます。

今後とも、千代田区の益々の発展を願ってやみません。長い間本当にありがとうございました。

戸張 孝次郎



千代田区神田で生まれ育ち、大好きな千代田区のため力を尽くして参りました。

幼稚園教員の経験を活かし、千代田区の教育の質の向上、健全なる子ども達の育成をめざし、区政の中で声を上げて参りました。監査委員のお役目を頂戴した時には、区全体の事業について意見を述べてきました。

最終の2年間は区議会議長として他区との連携など、幅広い立場の見解を深めました。

一言では表しきれない多くの貴重な体験をさせていただきました。皆さまのおかげで区議会議員生活を全うできましたこと、心から感謝し、お礼申し上げます。ありがとうございました。

松本 よしこ



戸張孝次郎



31年度予算編成と今後の財政運営について

問: 区は、区民生活を支える自治体として、きめ細やかな行政サービスを提供していく責務があり、それを支える強固な財政基盤を構築していくことが求められている。そのためには、現在1,000億円以上保有する基金を、有効に活用していくことが重要である。健全な財政運営を図るために、今後どのように取り組んでいくのか。

区の答弁

本区の財政状況は、子育て世帯や高齢者数の増加に伴う対応のほか、区有施設改修費用など、中長期的な財政負担の増大が予想され、今後、平成36年度までの5年間に約447億円の基金充当を見込んでいる。引き続き、効果的な事務事業の選択を行い、基金を有効に活用しながら、強固な財政基盤の確立と安定的な財政運営に努めていく。

代表質問

神田の街づくりについて

問: 今、神田の町は、区内各所で開発の動きが活性化しているが、市街地は、人けが感じられないマンションなども増えてきた。機能更新に当たっては、建物の建替えといったハード面にとどまらず、町の人々が大切にしている歴史的資源や祭礼文化などを踏まえながら、町のにぎわいを再生させ、地域の人々のコミュニティを醸成し、絆を守り育てる視点などのソフト面を含めた総合的なまちづくりの取り組みが必要である。私が愛する神田の歴史や祭礼などの文化を踏まえながら、成熟時代を見据えた神田のまちづくりに対する区の見解を聞きたい。

区の答弁

未来の神田らしさを具現化するためには、区民、地権者とともに議論することが必要なのは御指摘のとおり、大変重要だと考えている。幸い、神田には、町会・商店街などのイベントなどに取り組む方々が多く、こうした地域の主体的なまちづくりの担い手の皆さまと行政が知恵を出し合い、神田のまちの魅力の創造に向けて、まちづくりの取り組みを精力的に進めていきたい。

喫煙対策、特に喫煙所の設置について

問: 区は、平成14年に生活環境条例を設置し、平成26年に公園などにも適用できるように条例改正をし、公園の禁煙化が進められてきた。その結果、喫煙できる場所が減少し、コインパーキングや路地裏等での喫煙者が増えた。共生の理念のもと、喫煙所整備にもしっかりと取り組むべきであると考えている。来年度のたばこ税の歳入見込みは、約35億円。これを喫煙者に対する施策に当て、もう一段階上の取り組みを検討すべきではないか。

区の答弁

区は、喫煙所の整備をはじめとする生活環境改善関連事業の充実に注力してきた。今後もさらなる施策展開に努め、適時適切に取り組んでいきたい。



一般質問

内田直之



指定校変更の基準見直し

問: マンション建替えに必要な工期は2～3年である。児童の望まない転校を避けるため、指定校変更における転居予定の基準を「概ね1年以内」から「概ね3年以内」への変更を提案する。

区の答弁

区内のマンションは今後建替えが増えることも予想される。そこで、仮転居の期間が「概ね小学校の在籍期間の1/2」、すなわち議員ご指摘の「概ね3年以内」の場合、現住所の小学校への通学を認めるよう指定校変更基準の見直しを検討する。

千代田区マンション管理の適正化推進条例

問: 区民の9割がマンション等の集合住宅にお住まいである地域特性を考慮し、「マンション管理の適正化推進条例」が検討されている。実態調査と今後のスケジュールを問う。

区の答弁

条例では、①事前協議制度、②管理状況届出制度、③再生検討状況の報告制度の3点の仕組みを設け、必要な指導や支援策を実施する。マンション管理組合をはじめ関係者の意見を聞き、丁寧に進めていく。

大坂隆洋



ロストジェネレーション問題について

問: バブル景気崩壊後の就職氷河期に就職活動を行った世代が40代前後となっている。社会的にしかるべきキャリアを積み上げることが困難だったこの世代をロストジェネレーション世代と呼んでいるが、非正規雇用の割合が高く、賃金も他の世代と比較して低くなっているなど、様々な問題が顕在化してきている。社会構造の変化がもたらしたこの問題を世代の自己責任で片づけることはできず、今後社会全体で解決に向けて広く議論を行っていかねばならないとの認識から、今回の質問に取り上げた。ロスジェネ世代が抱える様々な課題を区としてはどのように認識しているのか。

区の答弁

この世代は非正規雇用の割合が年々高くなり、平均賃金に大きな格差が生じているなどから将来的に深刻な社会問題になると認識している。国や東京都に対しこの世代の就労支援を今まで以上に行うよう協力に働きかけていきたい。

●この他に中小企業支援施策についての質問を行いました。

永田壮一



危機管理の取り組みについて

問: 皇位継承に伴う国事行為、東京五輪といった国際的に注目される行事はテロの標的になりやすい。平時から警察、消防、自衛隊との役割分担を明確にした強化連携が必要である。防災については個々の備蓄を促し自助が基本であることを周知徹底するべき。最悪の状況を最善で切り抜けるという自治体の役割を踏まえた対策を求める。

区の答弁

東京五輪大会開催に向け平時よりの各機関の連携強化と自衛隊参加の訓練実施、大規模災害時の避難実施要領作成、危機管理専門家を育成する区内4警察署・民間業界団体と「千代田区パートナーシップ協定」を締結し「テロを許さないまちづくり」をめざしている。



桜井ただし



障害者福祉施策について

問: 平成30年度予算は精神障害に係る新規事業が多く目に見える成果をあげた。特に障害者福祉センターえみふるにおけるショートスティ定員の増や障害者よろず相談モフカの充実、精神障害者就労支援施設とグループホームなど大いに期待したい。そこで区長の基本的な考えについて伺う。一人一人の貴重な相談を受ける中で、相談施設モフカでは主にどのような相談内容が多く、区はどのように施策に反映しようとしているのか。今回、新年度予算では区独自の障害者福祉手当の対象に精神障害者保健福祉手帳1級所持者が新たに加わり、更に旧千代田保健所跡地に福祉施設整備の経費も計上、障害者施策がまた一歩前進するものと評価をしている。障害者施策への区長の決意について問う。

区の答弁

『障害等のあるなしに関わらず、その人らしさが尊重され、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる千代田区の実現』をめざし、着実に障害者福祉施策を推進していく。障害者よろず相談モフカでは精神障害や発達障害の相談が多くなっており、今後、保健、医療、教育、福祉、就労等をつなぐ横断的な支援と関係者のネットワーク構築を推進していく。新たな施設は高齢者と障害者の複合施設として整備する予定。幅広く様々な方のご意見を伺いながら、基本計画を策定する。

池田ともり



次世代育成支援について

問: 補聴器や弱視治療用眼鏡の助成制度などの千代田区独自の次世代育成支援を考えてはどうか。

区の答弁

助成制度は諸条件あるが片耳難聴の児童は対象外である。他の自治体における取り組み内容を把握するとともに本区でのニーズの把握に努める。歯科矯正治療への助成も併せて今後の検討課題とする。

一括した情報管理やサポート体制について

問: 障害児支援から障害者福祉へと切れ目のない支援になる方法を考えてはどうか。

区の答弁

保護者の意向や状況を把握しライフステージごとにプランを作成する。子どもと保護者が将来的な不安を取り除き、生まれてから生涯にわたり情報管理を徹底し地域で安心して暮らしていける体制ができるように努める。

食品ロスの削減について

問: 本区の特徴を活かした視点や千代田区らしいアイデアを考えてはどうか。

区の答弁

区民の皆さまには食品ロスの削減をテーマとした情報発信・啓発コーナーを設けるなど関心を持ってもらう場を提供していく。千代田区ならではの啓発の取り組みについて家庭でも企業でもわかりやすい事例として実現の可能性を検討していく。

